

# 今 尾 の 左 義 長

左義長は「どんど」ともよばれ、浄火によって「年神を送る」「荒々しい靈魂を退ける」「衰えた万物の再生を期す」「天地を浄め豊穡を祈る」正月の神事として全国で行われています。

今尾の左義長は、「火を崇め火伏せを祈願する」神事として毎年2月第2日曜日に行われ、400年あまりの歴史を持ち、神輿一基一基を神社境内に担ぎ込んで燃やしていくという大がかりなもので、岐阜県の重要無形民俗文化財に指定されています。

左義長の準備は、一週間ほど前の日曜日に竹集めをすることから始まり、前日には、青竹や枝や葉のついたままの一の輪、二の輪、三の輪に結びつけ、高さ・周囲とも約6mの鼓型にし、各氏子組ごとに作ります。

当日は正午頃、宮元の万町と共同制作する俵町の神輿から順次拍子木や笛や鉦しやうを打ち鳴らし、秋葉神社境内に担ぎ込まれます。そして、当番町内の氏子総代が烏帽子・袴姿に身を正し、宮司の手より総代の持つ藁の束に御神火を受けて、左義長神輿に火を移します。千本近い青竹から火炎で爆竹音がこだまし、火花が飛び散る中を揃いの長襦袢に白足袋姿の若衆が天まで届けと燃えさかる炎と煙の中を駆け回ります。そして、神輿がすべて燃え尽きた夜には、この残り火で災難よけの餅焼きをして無病の願いをします。また、燃え残りの青竹は持ち帰り、屋根に上げて火難・落雷除けをします。



## 駐車場案内図

